

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	環境エネルギー協創教育院	申請大学名	東京工業大学
申請大学長名	伊賀 健一		
プログラム責任者	丸山 俊夫		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none">・担当者の説明及び学生の受け答えからは、概ね計画どおりにプログラムが進行していることが伺えた。・他専門の学習をサポートする仕組みが配慮され、効果的に実践されている。意見交換を行った支援対象学生の士気も高く、非常に好感が持てた。・リーダーを養成するという本事業の意図が十分汲み取られており、学生にも浸透し始めている。今後も計画どおりに進められれば、一定の成果が期待される。・外国人教師を有効に活用するなど、取組に対する意欲が感じられる。修了者の質を保証するプログラムとして産業界等に広く認知されるような、リーディング大学院のブランド化を目指して、より高い質の教育を実現することが望まれる。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none">・プログラムのコースワークの内容を、大学院教育により相応しいものとするため、質を一層向上させる努力が必要である。・文理融合の中で、人文社会系が若干弱いように見受けられるため、その強化が望まれる。また、この教育においては機能面の教育に若干偏っているように見受けられるので、学生の思索を深めるような取組、例えば東京工業大学の卒業生等で経済界のリーダーとして活躍している方を招いた少人数セミナーなどによって、リーダーの考え方に触れさせるなどの取組が望まれる。・現状では個々に独立しているように見える自専門と他専門について、例えば自専門の博士論文を作成するに当たり関わりのある内容を他専門として、他専門を学ぶ意義を明確にするなど、工夫する必要がある。敢えて自専門と他専門が独立的であるような選択を学生がした場合、とりわけ自主設定論文の作成に当たっては、学生の士気を高めるためにも、機能的なサポートやアドバイスを実施する体制の一層の強化が望まれる。・グローバルインターンシップのためには、学生の高い英語力が必要であるが、現在のスキルアップ教育を、学生にとってより分かりやすい形で提示し、更なるスキルアップを促すなど、工夫が望まれる。・スカラシップは、質の高い学生を確保する上で重要であるが、支援期間終了後も継続が重要であるため、具体的な対策を考える必要がある。			